



各 位

上場会社名 川辺株式会社
代表者 代表取締役社長 吉田 久和
(コード番号 8 1 2 3)
問合せ先 執行役員経営管理統括本部管理本部長
兼経理部長 五十川 幹雄
電話 03-3352-7110

平成27年3月期 個別経営成績の前事業年度実績値との差異に関するお知らせ

平成27年3月期決算における個別経営成績の前事業年度実績値との差異に関しまして、下記のとおりお知らせいたします。

1. 平成 27 年 3 月期 個別経営成績の前事業年度実績値との差異 (平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 26 年 3 月期(A)	16,130	337	430	132
平成 27 年 3 月期(B)	15,490	209	283	320
増減額 (B - A)	640	127	146	187
増減率	4.0%	37.8%	34.2%	141.0%

2. 差異の理由

売上高につきましては、ハンカチーフは、外国人観光客の増加によるインバウンド需要から『ジバンシィ』等のブランドが、一部の都市圏百貨店において売上の大きな伸長が見られたものの、全国的に消費税引き上げの影響による買い控え傾向が長引いたことと、3月の繁忙期であるホワイトデー販売が低調に推移した影響により、主要販売先である地方百貨店及び量販店の店頭販売が鈍化した結果、売上は低調に推移いたしました。

フレグランスは、当社の百貨店、直営店におけるフレグランス店頭販売が回復基調であり、前期に引き続き主力商品である『サルヴァトーレ フェラガモ、プラダ、フェンディ』等の売上が順調に推移したことやホールセール向けの販売増が牽引したことにより、売上は伸長いたしました。

この結果、売上高は6億40百万円減少いたしました。

一方、利益面につきましては、身の回り品事業において、売上の減少と円安の影響による輸入コスト増が要因で売買率は低下いたしました。一方、販管費につきましては、経費削減効果により前年同期と比べ若干減少となりましたが、利益は売買率の低減を補えず、前年同期と比べ減少となりました。

フレグランス事業において、売上総利益は、ホールセール向け売上が増加した影響で売買率は若干ダウンいたしました。販管費において事業の再構築による大幅な経費削減効果により、前年同期と比べ利益においては改善いたしました。

以上の理由により、前期と比べ営業利益・経常利益は減益となり、一方、当期純利益につきましては、平成26年10月24日発表の「固定資産の譲渡ならびに特別利益の計上に関するお知らせ」にて記載しました川辺大阪ビルの売却等により、特別利益3億44百万円、特別損失58百万円があり、当事業年度は増益となりました。

以 上